



大野もとひろ後援会報

FRONT LINE

令和2年1月1日発行
第1号

発行所：彩裕会
〒332-0017 埼玉県川口市栄町2-1-11
プランズ川口栄町パークフロント103

日本一暮らしやすい

埼玉の実現を

大野もとひろプロフィール

埼玉県川口市生まれ。慶応大学卒。国際大学修士課程修了。中東調査会上席研究員、中東諸国の大使館勤務を経て、東京大学、青山大学、日本大学等で教鞭をとる。イラク戦争時には衆議院で参考人として「イラクの大量破壊兵器は外国に脅威を及ぼさない」と発言し、一石を投じる。企業経営のかたわら、世界最大の社会奉仕団体ライオンズクラブで史上最年少のガバナー（埼玉県の代表）としてボランティア活動に従事。平成22年参議院埼玉県選挙区で初当選後は、「動的防衛力構想」を構築した平成23年防衛大綱起案に関与し、党ネクスト防衛大臣として日本の領土領海を守る「領域警備法案」を起草。2期目在任中の昨夏、埼玉県知事選挙に挑戦。見事勝利し、現在1期目。就任後、公約として掲げた5大プロジェクトの一つ「埼玉版スーパーシティ」構想の実現に向けて奮闘中。

学生時代はアメフト、柔道（初段）、水泳に没頭。落語や音楽が好きな三人の子どもの父親。祖父は元川口市長の大野元美。



即戦力！
突破力！
実行中



ポスター掲示協力のお願い

大野もとひろの最新ポスターができました
ご自宅の塀、駐車場、アパート空き地、畑などに、
ポスターをご掲示頂ける方は

大野もとひろ事務所
TEL 048-271-5252 までご連絡ください。

『大野もとひろと日本一暮らしやすい埼玉をつくる会』

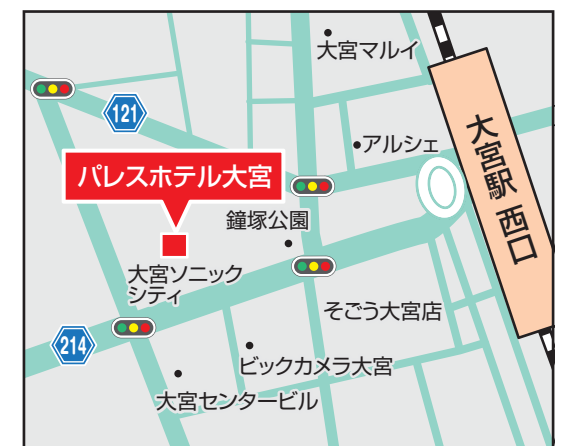
日時 令和2年4月28日（火）

開宴 18:30（17:30より受付開始）

会場 パレスホテル大宮 4階『ローズルーム』
さいたま市大宮区桜木町1丁目7-5
TEL 048-647-3300

会費 20,000円

※この催しは、政治資金規正法第8条の2に該当する政治資金パーティです。



● 大野もとひろ事務所 ●

〒332-0017 埼玉県川口市栄町2-1-11 プランズ川口栄町パークフロント103
TEL: 048-271-5252 ホームページ <https://www.oonomotohiro.jp>
FAX: 048-271-5200 E-mail: saitama@oonomotohiro.jp

新年あけまして

おめでどうございます



知事就任署名式（県庁知事室）

昨年八月に行われ大激戦となった知事選挙。
大野もとひろは「日本一暮らしやすい埼玉」
の実現を掲げ、多くの県民の皆様のご支援、
ご支持をいただき、当選を果たすことができました。
年が明けて令和二年、大野もとひろは
新たな気持ちで埼玉県政に正面から
取り組んでまいります。

危機管理対応

知事就任から二週間しか経っていない九月十三日、CSF（豚コレラ）が秩父市内で発生しました。その四日後には小鹿野町内で二例目が発生。「CSFを関東に広げてはならない」。単発ではなく面的な拡大を懸念した大野もとひろ知事は動きま

した。その日のうちに農林水産省を訪問。新井消費・安全局長に対して、畜産農家への支援をはじめ、CSFの感染拡大を予防するためのワクチン接種の検討や戦略的対応を訴えました。

その後農林水産省は、ワクチン接種に大きく舵を切ることにあります。十月には国の防疫指針が改正されCSFが発生した県でのワクチン接種がスタート。各県での対応には、大野もとひろ知事が提唱した段階的方法が採用されました。

また、加藤厚生労働大臣に

即戦力、突破力を発揮して

であった観客輸送や警備も非常にスムーズに進みました。そして何よりも高い評価を得たのが約千三百人のボランティアの方々です。「埼玉の神対応」と呼ばれるなど、心温まるおもてなしで大会を盛り上げました。

今後は、熊谷ラグビー場の良さを生かしつつ、ワールドカップラグビーのレガシーを残すためにも、国際試合やトップリーグ、さらには、大学ラグビーの試合などを数多く開催するための取り組みを進めます。



富岡熊谷市長とミックスゾーンで（熊谷ラグビー場）

埼玉県政に正面から取り組む

要望した結果、と畜場がワクチンを接種した豚を差別的に扱うことが禁じられました。埼玉県でも十一月から接種が始まり、十一月九日の五例目発生を最後に、沈静化が進んでいます。

このような中、大野もとひろ知事は、さらなる危機に直面することになりました。



台風19号の被災現場を視察（新江川 東松山市内）

それは過去最大級と言われた台風十九号の襲来です。

大野もとひろ知事は、台風上陸の二日前には、県民にタイムラインを作成して早めの準備をするよう自ら動画で呼びかけました。さらに、台風が通り過ぎるまで、県民の皆様に「命を守る行動をとってください」とSNSを通じて繰り返し訴え続けました。

県庁においても、台風接近前から情報収集にあたらせるとともに、台風上陸時には直ちに災害対策本部を立ち上げました。また、台風直撃以前に内閣府との間で幅広く災害救助法の適用を行うよう調整を行ったり、台風通過直後の十三日早朝には自衛隊の秩父地域への派遣を要請するなど、自らが先

行政改革

大野もとひろは、知事選出馬にあたり、埼玉県のあふれる魅力を上田県政を継承しながら県民の皆様とさらに発展させていく決意のもと、公約として「日本一暮らしやすい埼玉を実現する政策集2019」を掲げました。

知事就任以降、この百二十九項目の公約を実現させるため、九月には県行政として今後取り組むべき方向性を、そ



どこでも知事室（埼玉県立大学）



新井消費・安全局長にCSF対策を緊急要望（農林水産省）

頭に立って迅速に意思決定を行いました。

災害発生から七十二時間は人命救助と情報収集を最優先に、その後は、復旧、復興に重点を移しました。今回の対応を再検討し、予防措置を講じるとともに、国が管理する河川の本流部分の整備を強く要望しているところです。

年が明けても、普段の生活を取り戻せていない被災者のために、そして、再び被害を

して、十一月には今後の施策の進め方を示した工程表を発表しました。

中でも目立ったのが、民間の経営感覚です。大野もとひろ知事は、現場主義、費用対効果の最大化、そして行政改革を掲げています。

県内で活躍する企業や団体を訪れる「ふれあい訪問」や意見交換を通じて県民の声を直接吸い上げる「どこでも知事室」、県職員の意識改革も視野に入れ業務の効率化を追求する「行政のペーパーレス化」などは、昨年中にすでにスタートしています。



知事記者会見（県庁庁議室）

繰り返さないために、大野もとひろ知事は全力で取り組んでいます。



自衛隊災害派遣のお礼に河野防衛大臣を訪問（防衛省）

埼玉の神対応

昨年、日本中が盛り上がったラグビーワールドカップ二〇一九。日本代表の素晴らしい活躍に多くの人々が歓喜の声を上げました。

熊谷ラグビー場では、課題



山下JOC会長がオリ・パラへの協力を求めて来庁（県庁知事室）

今年も盛り上がる埼玉

今年の夏には、いよいよオリンピック・パラリンピックが開催されます。東京に次いで開催競技数の多い埼玉県にも、全国から、そして、世界中から多くのお客様がやってきます。埼玉を盛り上げ内外にアピールする絶好の機会です。

こうしたチャンスもとらえながら、大野もとひろは「即戦力、突破力」を発揮し、県民の皆様とともに埼玉を「日本一暮らしやすい県」にしたいと願っています。皆様を引き続きのご支援とご協力を心からお願い申し上げます。